



ふるさとへの思いと絆をつなぐ広報誌

平成25年10月20日発行(毎月1回20日発行)

# ふるさとたより

久之浜・大久、四倉、平、小名浜、勿来

2013年

Oct

NO.29

10

Pick up

秋の運動会や文化祭開催!

各地で特色のある復興イベントが行われ、  
多くの住民たちが参加し、楽しみました!



今月の子どもたち 上仁井田子供じんがら(大浦小6年)

〈前列左から〉山内翔太郎くん、太田雅人くん、白井亨紀くん、鈴木大樹くん  
〈後列左から〉西山日向子ちゃん、鈴木なぎさちゃん、三浦凜華ちゃん



久之浜・大久



四 倉



平



小名浜



勿 来

久之浜コレクション  
浜風商店街2周年

時計台が6丁目で営業再開  
大浦小で地域ふれあい会

豊間小で映画学校  
あんばさまの町図絵

江名小×おでかけアリオス  
永崎地区復旧工事

消防団員の必死な救助活動  
タイムカプセル本格始動



9月1日と28日に行われた服づくりワークショップは延べ31名が参加しました

その側では「楽しんでもらえるのが一番」と次に向かって話し合いが始まっています。久之浜で子どもたちと多くの時間過ごすサポートチーム。次の企画が、今から楽しみです。

久之浜・大久地区まちづくりサポートチーム。東京で建築学を学ぶ学生と指導教官そして地元久之浜の青年などで構成されています。これまで、地域づくり協議会看板の「デザイン」、祭りボランティア、久之浜一小総合学習のサポートなどを行つてきました。

### 世界に1着だけの服づくり

「今年2月、久之浜から東京へ帰る時に『ファッションショー』やつたら面白そう』と話題が出て企画を考えました」と今回のチームリーダー、奥泉理佐子

9月29日、荷物の梱包材に使われる、通称「プチプチ」に囲まれたステージで、いよいよ1着の服を着て、スポットライ

大きな真っ白のTシャツが用意されました。参加した子どもたちは久之浜の風景を元にイメージを膨らませてデザインを考え、Tシャツに切れ込みを入れたり、ビーズやリボンで飾りつけをしたり、絵の具やスプレーを使いながら各自思い思いの作業を続けました。

### いよいよファッションショー



## 久之浜コレクション開催

まちづくりサポートチームと子どもたち手作り衣装でファッションショー



さん(武蔵野美術大2年)。7月からメンバーを集め、ショーの実現に向けてアイディアを出し合いました。そして迎えた9月1日、久之浜一小の体育館には

トを浴びながら歩き、そして決めのポーズ。来場者から歓声と大きな拍手が送られました。終演後、「楽しかった。またやろう」「ねえ、次なにやるの?」と満面の笑みでメンバーに抱きつき話す子どもたち。



## アンモナイトセンターは宝物 化石講演会



小中学校連携推進事業の一環で開かれた講演会。久之浜一小と二小の6年生、そして久之浜中の1年生が聴講しました

9月9日、久之浜中学校体育館で化石講演会「化石愛好家が見た、いわきとアンモナイトセンターの魅力」が開かれました。講師は、茨城キリスト教大学准教授・梶田泰孝さん。今年1月5日、アンモナイトセンターの化石体験発掘が再開された初日にも足を運んでいた自他共に認める化石愛好家です。子どもの頃から化石好きだったという三重県尾鷲市出身の梶田さん。いわき市そして同センターが全国の化石愛好者にとって憧れの地であることなど、スライドを使いつながら講演が進みました。

「地元の人にとって、意外とその素晴らしさはわかりにくいものかもしれません、アンモナイトセンターは宝物です。そして、自然に囲まれたすばらしい場所いわき。いっぱい遊んでいっぱい勉強して、そしてみなさんで、いわきを元気にしていって下さい」と講演を聴く児童・生徒に梶田さんからエールが送られました。

## 県内で唯一 国交大臣表彰

### 久ノ浜駅前道路愛護会

平成15年4月、JR久ノ浜駅前の県道に花壇が整備されたのをきっかけに発足した久ノ浜駅前道路愛護会。花の植栽、除草や清掃など道路の美化活動を続けています。その活動

が評価され、今年8月29日に国土交通大臣表彰を受けました。

「年間を通して花が切れないよう心がけています。あの震災の年もチューリップが津波にも負けず咲いてくれました。それを見た方が『一番早い復興ですね』と言ってくれました。多くの被災者が久之浜に戻って来る日を待ちながら、これからも活動を続けていきたい」と根本智子会長。

四季折々に咲く花が駅の利用者や道行く人の目を楽しませ、そして気持ちをなごませています。



「道行く人から、『久ノ浜の駅前が一番キレイ』と言われるのが励み」と根本会長(前列左から二人目)と愛護会のメンバー

## にぎやかに浜風商店街2周年 久之浜わくわくまつり開催



▲9月7日行われた浜風商店街2周年を祝う「久之浜わくわくまつり」。多くの人出でにぎわいました



▲熱気球の体験フライトやプロレス、いわきのご当地アイドル「アイくるガールズ」のコンサートも開かれました



高木宮司と地区的代表が大久川で身を清めて、家内安全、地区的安全などを祈りました

### 久之浜地区放射線量測定記録 (各区代表ポイント)

- 測定日:平成25年9月26日(天候:晴れ)
- 測定者:久之浜・大久地区復興対策協議会
- 測定器:日立アロカメディカル製 TCS-172 (シンチレーションサーベイメーター)

| 測定ポイント          | 地上<br>1cm | 地上<br>100cm |
|-----------------|-----------|-------------|
| 田之網(田之網集会所)     | 0.14      | 0.13        |
| 南町(旧道沿い中央部)     | 0.11      | 0.12        |
| 中町(旧道高木屋旅館付近)   | 0.10      | 0.09        |
| 北町(久之浜駅前)       | 0.12      | 0.13        |
| 東町(旧久之浜漁協前)     | 0.08      | 0.10        |
| 西町1区(西町公園付近)    | 0.16      | 0.14        |
| 西町2区(久之浜一小正門付近) | 0.23      | 0.20        |
| 金ヶ沢(鹿野付近)       | 0.20      | 0.18        |
| 末続(末続駅前)        | 0.25      | 0.22        |
| 大久(大久公民館付近)     | 0.20      | 0.17        |
| 筒木原(久之浜二小西門付近)  | 0.13      | 0.11        |
| 小久(町田橋付近)       | 0.14      | 0.14        |
| 小山田(小山田集会所付近)   | 0.20      | 0.18        |

単位はすべてμsv/h

\*<sup>(株)</sup>東北イノベーターのHP  
<http://www.thkinnovator.co.jp/>で  
より詳しい放射線情報をご覧いただけます。

# 復興へ向けた動き

久之浜  
大久

## 防災拠点施設 (津波避難ビル)説明会

### まちづくりグランドデザイン 策定へ向けて

9月12日、久之浜地区防災拠点施設(津波避難ビル)説明会が開かれました。基本構想では、ビルは4階建て。想定される津波が発生すると2階まで浸水する可能性がありました。今回、建築面積を広げ、地盤のかさ上げに加え1階の天井を高くすることで、基本構想と同程度の高さを確保。浸水の心配がない2階、3階部分に十分に広く安全な避難スペースを確保した3階建てとする案が提示されました。

これまで、久之浜においては、平成15年に地域づくり協議会の「地域づくり全体構想」、昨年の復興対策協議会「復興グランドデザイン」が策定されています。今回それを参考に、久之浜のまちづくりとして将来像をより具体的、かつ実現性の高いものとするため話し合いが始まりました。

久之浜・大久地区復興対策協議会(吉原二六会長)に、今後の復興へ向けたグランドデザイン(全体構想)策定の作業部会が設置されました。

まちづくりグランドデザイン

## 祭りの様子

地区内の安全を祈願して  
三森山神社の例祭



筒木原不動尊の駐車場から細い林道を進むこと約20分。三森山の懐に抱かれひっそりとたたずむ三森山神社

## 地域づくり協議会 石川町祭り視察

640年の歴史と伝統ある石川町の石都々古和氣神社の例大祭。9月14日、久之浜・大

秀会長)が視察を行いました。

各町内の神輿や山車が奉納さ

れる御仮屋前には、久之浜か

らの観察者用に椅子も用意さ

れ、およそ40名が祭りを堪能



石川町を訪れた地域づくり協議会のみなさん。祭りを満喫しました

久之浜・大久地区を横断するように流れる大久川。そして、地区のもう一つのシンボル

三森山。9月7日、大久川の源流近く三森山の山麓にある

三森山神社で例祭が行われました。高木美郎宮司ら3名

が大久川の清流に入り身を清め、氏子や地区民ら20名が

地区の安全などを祈願しました。



神輿の担ぎ手の威勢のよい掛け声に合わせて、見ている側もつい大きな声で「わっしょい!わっしょい!」

観客から一番多くの歓声が送られたのが双里地区の神輿。担ぎ手が多くが5月の諏訪神社例大祭で神輿を担ぐため久之浜を訪れていました。「双里は石川町の新興地。長く神輿はありませんでした。子どもたちのために、みかんの木箱をもとに作った神輿で初めて祭りに参加したのが、39年前。祭りも町の交流も1回、1回の積み重ねが大事。そうして、伝統が築かれて行くんだね」と双里祭礼実行委員会顧問の鈴木正勝さんは話してくださいました。

2



真新しい厨房で中華鍋を振るう刈込吉弘さん。充実した表情が印象的でした

**津波で被災するも常連客の後押しで再開へ**

上仁井田の「ペンション＆レストラン時計台」。店名は、先代が修行した東京・銀座のラーメン店「時計台」にちなんで付けられました。

1階にレストラン、2階に宿泊用の部屋があり、海に近い幹線道路沿いといふこともあって、地元はもとより遠方から来るサーフィンやツーリングのお客で人気を集めています。

大震災では建物が津波に襲われ、四倉町内の自宅も大きな揺れで全壊。「店はちょうどリフォームし

たばかりで、1年も経たないうちに震災で全壊になってしまいました」と店主の刈込吉弘さん。1階部分が大きく壊れた建物を見て、営業再開は考えられなかつたそうです。

しかし、仮設住宅で生活しながら自宅の復旧工事を進めている時、かつて店に来てくれた常連客に「いつ再開するの?」「またラーメンが食べたい」と声を掛けられ、その言葉が吉弘さんを後押ししました。

りれば費用がかかるので、自宅を改装しようと思いました」。

**そして再オープン**

**仕事が出来ることに感謝**

自宅を店舗用に改修したり、流失した厨房器具をすべて買い直したりして、営業再開を目指した吉弘さん。新しく揃えた寸胴鍋などが馴染むまで戸惑いもあつたものの、4月20日に再オープンすることが出来ました。

「仁井田の店にも思い入れはありませんでしたが、気持ちを切り替えようと。ただ別の場所を探すにしても、土地や家を借り



新しいお店は閑静な住宅地にあります。名物の味噌ラーメンのほか、カレーライスなども人気



妻の妙子さんと二人三脚でお店を切り盛りしています。妙子さんの元気な接客も魅力です



もしもの時に備えて、着々と進む盛り土工事。新しい広場の完成が楽しみです(9月30日撮影)

**盛り土工事で道の駅の防災機能向上を図る**

道の駅よつくら港周辺では現状、県小名浜港湾建設事務所によって、盛り土をする工事が進められています。

同交流館の国道6号側の夕凪広場(約1,700m<sup>2</sup>)は、コンクリートブロックの一種であるインターロッキングブロックを敷き詰めています。

交流館に隣接する情報館の前も、市による建物のかさ上げ工事に合わせて同ブロックを敷き詰めています。

これらの工事によって、道の駅とその周辺地域の防災機能を高めています。

込みました。

今の環境で出来ることをやつていきます。スペースは限られていますが、とにかく仕事が出来ることが嬉しい」と再び厨房に立てた喜びとありがたさをかみしめながら、笑顔で話を吉弘さん。

## 「以前と変わらない味」の言葉が何よりの励みに

# 食事処 時計台

## 地域ふれあい会で 親睦深める



お昼の時間には、1~3年生の教室で、講師と児童と一緒に給食を楽しみました



講師に教わりながら、のこぎりや小刀を使って竹とんぼを作りました

大浦小で9月6日、「大浦地域ふれあい会」が開かれました。同校で20年以上続く恒例行事で、地域や公民館などで活動するみなさんを講師に迎えて、児童がいろいろな講座で学び交流を深めています。

今年度は38名の講師が来校し、209名の児童が絵手紙、あやとり、お手玉、将棋、わら細工、和太鼓・三味線、竹とんぼ、グラウンド・ゴルフの8つの講座に参加しました。

お昼の時間には、1~3年生の教室で、講師と児童と一緒に給食を楽しみました。

## 芸術に触れて 心を豊かに



▲バレエ「いつか王子さまが」、「ロマンス」を鑑賞し、児童たちは大きな拍手を送りました

9月27日には、同校の鑑賞教室で「長谷川ファミリーほのぼのコンサート」がありました。文化庁の芸術体験事業の一環。福島市在住の長谷川朝子さんが歌とハープを披露したほか、バイオリニスト石龟希実さんとピアニスト菅野真紀子さんによる演奏、クラシックバレエダンサー古俣貴美子さんの華麗な演技に、児童たちは魅了されました。

コンサートの中で、同小が9月の歌として練習中の「カントリー・ロード」を児童全員で合唱したほか、4年生が方部音楽祭で演奏する「情熱大陸」を発表しました。

月の歌として練習中の「カントリー・ロード」を児童全員で合唱したほか、4年生が方部音楽祭で演奏する「情熱大陸」を発表しました。

## 児童、園児が津波避難訓練

9月6日、四倉小で津波を想定した避難訓練が実施されました。大規模地震が発生し、数十分後に津波が同校まで押し寄せることも想定される可能性があるとの想定のもと、児童305名と四倉第一幼稚園の園児40名が参加。

子どもたちは教職員の誘導に従って、同校の西門からJR常磐線沿いの道路を通り、高台にある海嶽寺までの約1kmを、徒歩で避難しました。

境内での全体指導で、渡邊隆校長は「災害はいつ、どこで起きるか分かりません。いざという時には今日の訓練を思い出して、大切な命を守って下さい」と話しました。

園児48名が参加し、かけっこやダンスのほか、今年のテーマ「よつくらマリンワールド」にちなんだ種目「海底2万マイル」「何色のさかな?」「ビーチフラッグ対決」などに挑戦。園児のほか、今年3月に卒園した四倉小の1年生や、来園する種目もあり、小さな身体で一生懸命に頑張る姿に、会場を訪れた保護者から温かい声援と拍手が送られました。

秋晴れの下、参加者は会津の唐人風や連風など各地の伝統的な風や趣向をこらした風を揚げて、技を競いました。



万が一に備えて、整然と避難訓練に取り組む児童たち。迅速に海嶽寺へ向かいました

**38団体が参加して  
凧揚げの腕前を披露**



リレーでは、バトン代わりのリングを手に持って、ゴールを目指して力走しました



風が弱かったものの、様々な凧が秋空を彩り、来場者の目を楽しませました

**秋空の下、元気いっぱい  
演技を披露**

四倉第一幼稚園の運動会は  
9月29日、四倉小の校庭で開催されました。

四倉の秋の風物詩として知られる「第18回いわき凧揚げ大会」が9月29日、四倉海岸で開かれました。県内はもとより秋田、宮城、東京、埼玉、静岡などの38団体約3,000名が参加。数日前に降った雨の影響で砂浜に水たまりがあったものの、絶好の

●白銀祭  
10月26日（四倉中学校）

●いわきDE YOSA来い!秋祭り  
10月27日（道の駅よつくら港）

●四倉地区市民文化祭  
11月3日 芸能の部（四倉公民館）  
11月9~10日 展示の部

お知らせ

学校だより

## ー地域で応援ー

# 豊間小学校で映画制作

9月17日から19日の3日間、豊間小学校で、5年生20名による映画制作が行われました。これは市教育委員会主催のいわき・わくわく「しごと塾」の取り組みで、制作には「福島こども映画学校」(前田茂司校長)のスタッフが参加しました。

### 1日目 開校式

前もって選ばれた2つの脚本ごとに、D班(鍵谷大地班)の「十年後の再会」、R班(有働凜太郎班)の「獅子舞の夏」に分かれて、シナリオの作成や演技指導などを进行了。

▼R班のシナリオ制作風景。ひとりずつ発言していきます



▲D班脚本に基づき台詞の演技指導をしています

### 2日目 撮影開始



▲沼ノ内弁財天でのD班の撮影シーン。震災の跡が残りますが地域の伝統的な建物です

▼海でのR班の撮影シーン。豊間では海は欠かせない存在です



▲最後にお世話になった映画班と地域のボランティアスタッフと記念撮影

### 3日目 試写会と閉校式

プロの撮影班がデータを宿に持ち込み、アフレコ作業、補足撮影したものなどを加えて編集した素材を最終チェック。待ちかねた試写会には、協力した地域住民やスタッフが招かれました。

試写では、D班の「再会のシーン」で大人から子どもに変わった特撮シーン」やR班の「沼ノ内諏訪神社の獅子祭りのシーン」などで、歓声が上がりました。

閉校式では前田福島こども映画学校長から「去年は全校児童で開催したが、今年は演技も

レベルアップできていて、ストーリーも良かった」と総評があり、水谷大豊間小学校長からは「子どもたちも頑張りましたが、地元の大人が支えたことで無事作品が仕上がりました」と映画制作を支えてきた方々に感謝の言葉が伝えられました。

この作品の完全版は10月27日豊間公民館まつりで上映されます。



D班、R班にそれぞれ努力をたたえる賞が与えされました

▼中学生が小学生低学年を誘導します。この学校ならではの風景です



▲教師が動けなくなるなどの指示があり、とまどう児童も

## 自分で考え行動する訓練

9月6日、いわき市で震度6強の強い揺れと大津波警報が出されたという想定で、豊間小・中学校で避難訓練が行われました。

避難中、物が散乱してたり非常口が開かなかったり、けが人が出たりと、児童・生徒そして教師たちにも想定外の事例を用意しての本格的な訓練になりました。水谷小学校長から「日頃から物と頭の整理整頓をしておくこと、災害は隣にあるものと考えてすぐに行動できるように」との防災講話がありました。

# 復興へ向けた動き

地域の復興の後押しを  
信用金庫グループで  
ボランティア活動

## 豊間地区災害公営住宅 入居に向けての勉強会開催

市が行なう災害公営住宅の入居説明会に向けて、ふるさと豊間復興協議会では9月20日から22日、豊間公民館で勉強会を行ないました。参加者は居住希望の約160世帯。

勉強会はワークショップ形式でアンケートに基づき東京支援グループがサポートする形で進められました。

鈴木徳夫協議会会长は「災害公営住宅について、たくさんの情報を知りたい」という思いから、この勉強会を開催しました。10月より災害公営住宅の募集が始まります。ここに集まつた大勢の方が地元に戻ることを希望していることが喜ばしい」と話しました。



くい打ち作業が始まっている災害公営住宅の建設現場を視察するふるさと豊間復興協議会のメンバー



20日は観光や視察で訪れる人が多い、ひばりロードの除草も行いました



八幡神社の薄明かりが幻想的。震災当時は住民の避難所になりました。ボランティアメンバーも獅子舞に見とれていました

祭りに向けて諏訪神社と諏訪川周辺の除草を行うボランティアメンバー



9月19日には豊間地区、20日には薄磯地区で「豊間・薄磯地区スクールゾーン清掃ボランティア」が行われました。東京をはじめとする3信用金庫とひまわり信用金庫の方々が両日で延べ60名参加しました。ひまわり信用金庫の小野寺稔常務理事は「被災地のみなさんの笑顔の後押し하겠습니다」と除草・清掃活動を行いました。

このボランティア活動は、全国の信用金庫グループで構成された、「チームHIKARU」の7名のボランティアも参加し、祭りの準備のほか、神社や諏訪川、南集会所の除草も行いました。鈴木豊間区長は「若手が集まらない地域なので、元気をもらいました」と話していました。

## ボランティアが応援 豊間八幡神社例大祭

豊間の八幡神社で秋の例大祭が9月14日は宵祭り、15日本祭りが行われました。宵祭りでは、先月の諏訪神社の祭りでも披露された、獅子舞の奉納がありました。この例大祭には石川県と京都府から「チームHIKARU」の7名のボランティアも参加し、祭りの準備のほか、神社や諏訪川、南集会所の除草も行いました。鈴木豊間区長は「若手が集まらない地域なので、元気をもらいました」と話していました。

## 震災前の町なみを絵地図に

豊間、薄磯、沼ノ内



多摩美術大学製作グループより豊間、薄磯、沼ノ内3区長へあんばさまの町図絵が贈呈されました



プロジェクト傳鈴木会長より屋号の調査などでお世話になった遠藤光子さんと坂本武一さんへ感謝状が渡されました



子どもたちによる「あんばさまの唄」の演奏。夏休みの間、一生懸命練習しました



会場には関係者や地元住民約150名が出席しました

9月22日、いわき新舞子ハイツで「あんばさまの町図絵報告会」(プロジェクト傳主催)が行われました。

この絵地図は震災前の豊間、薄磯、沼ノ内の地図に地域の伝統文化や町の生活、風習などを記されたものです。

冒頭、同会の鈴木利明会長から「たくさんのものが失われ、悲しみが町を包んだ日から2年半が過ぎ、ふるさとを離れて暮らす人もいます。この絵地図を見てすばらしい風景と人情が思い出され、後世に残せるようにと使命感を持って作りました」とあいさつ。

「あんばさまの町図絵」の贈呈式の後、メンバーと子どもたちによる「あんばさまの唄」の披露があり、会場にいた人も一緒に口ずさみました。

この「あんばさまの町図絵」は3地区全戸と市内の中学校、行政機関に配布され、希望者には1部500円で販売します。

■お問い合わせ／プロジェクト傳事務局 ☎0246-39-4110



台本を手に立ち稽古。最後の学習発表会に向け頑張っています

## 地元の魅力を PR するお芝居を創作

# 江名小学校 × おでかけアリオス 地域交流落語会

最初のワークショップは「落語」体験。まず、落語をほとんど聴いたことがない子どもたちのために、落語家のふたりが小噺を披露し、話し方などを指導。実際に高座にあがり、小噺に挑戦しました。最後に、江名の歴史や史跡、

旗、獅子舞などのキャラクターをデザインしました。

江名小学校で7月から行われている「おでかけアリオス地域交流落語会」。落語家の立川らく次さんと立川獅子丸さんが小学校を訪れ、6年生25名と一緒にオリジナル落語や芝居をつくり、10月の学習発表会で披露します。

**第1回 落語ってなんだ?!**  
**7月18日**

おもしろ話を調べてくるという夏休みの宿題の説明がありました。

**第2回 決めよう! お芝居のテーマを**  
**8月29、30日**

夏休みに地域について調べてきた内容をもとに、江名をPRするキャラクターを考え、それを主人公にしたお芝居をつくることに。

**第3回 いよいよ稽古開始!**  
**9月12、13日**

ゆるキャラを主人公とした物語の案を子どもたちが出し、担任の馬場口勝彦先生が「あらすじ」としてまとめたもので、らく次さんと獅子丸さんが台本を作成。落語と芝居の要素が混在したものができ上りました。

役は「語り」と「動き」に分かれる形式。語り口や仕草、发声の仕方などを教わり、台本を手に立ち稽古をしました。

子どもたちは今、10月26日の学習発表会に向け練習と小道具づくりに励んでいます。



江名・折戸地区に伝わるお囃子を披露。4年生から6年生の女の子が参加しています



立川らく次さん(左)、立川獅子丸さんが落語や演技を指導



江名のゆるキャラを作成。デザインだけでなくプロフィールも考えました

9月14、15日に「ふるさとの祭り2013」がアクアマリンパークで開催されました。県内外の多彩な祭りや伝統芸能が披露されたほか、伝統芸能の体験コーナーや伝統工芸の創作コーナーなど同時にカジキゲルメサミット2013も開催され会場は盛り上がりました。

## 第36回磐城地区 総合市民文化祭 開催のお知らせ

■展示の部  
日時 / 10月26日(土)、27日(日)  
9:00~16:00  
<小名浜公民館>

■芸能の部  
日時 / 10月27日(日)  
9:00~15:30  
<小名浜市民会館>



▲じゃんがらやいわき踊りが取り入れられたYOSAKOIを披露

◀伝統工芸創作コーナー「置き物作り」の様子

観て、触れて、体験して  
ふるさとの良さを再発見

# 復興へ向けた動き

永崎

## 永崎小学校前の道路・ 橋梁・河川復旧工事着工

震災で甚大な被害を受けた永崎地区の沿岸部。小学校前の大平川1号橋は崩落し、現在は歩行者・自転車専用の仮橋が架かっています。

今年6月から復旧工事が本格的に始まり、大平川に沈んだガレキを掘り出し撤去する作業が行われています。10月には杭打ちなどの本体工事に入る予定となっており、下部工事終了後、道路と河川、上部工事が開始されます。同橋は橋長9・6m、幅員10・7mで来年の3月に完成する予定です。



ガレキ撤去作業の様子。今後、大型機械などの出入りが多くなるため、通行の際は十分注意が必要です



工事が始まるため、9月24日から駐車場は使用できなくなっています

## 永崎地区防災緑地、 災害復旧工事進捗状況

海岸の災害復旧工事は、昨年8月から離岸堤のかさ上げ工事を行い、今年7月に完成了しました。8月からは堤防の工事に着手しており、現在は駐車場の舗装の撤去作業が行われています。このあと堤防前面のかさ上げ工事に入り、順次工事に取りかかっていくこととなっています。

防災緑地の工事は、堤防の裏法基礎工事が終わり次第、土を盛る作業に入していく予定です。工事は27年度内の完成を目指し進められています。



## 元気いっぱい!!運動会



▲きりん組とばんだ組による大玉ころがし。保護者と一緒に頑張って転がしました

永崎  
保育所

▲おせんたくがとんでくよ!では、シャツや靴下をぶら下げた物干し竿がバトンに



▲そら組によるビバ!いそぶし。元気いっぱいの踊りを披露

江名  
幼稚園

▲じえじえじえ!江名のあまちゃんは、お父さんと一緒に頑張りました

## ろうそく作りサロン会

### 雇用促進住宅磐城宿舎(下神白)

9月20日に磐城宿舎で、交流サロンが開かれました。雇用促進住宅の入居者を対象に毎月行われているもので、今回はろうそく作りに挑戦。お寺から無料で提供された太いろうそくを溶かし、クレヨンを削って混ぜ色を付けたり、シールなどで飾りを付けたりしながらオリジナルのろうそくを作成しました。

参加者は「みんなと話しながらできるので、とっても楽しい」と笑顔を見せました。



▲色を何層にも重ねる場合は、前の層が固まつから流しいれるときれいに仕上がりります



「部屋に置いておくだけでお洒落になるわね」と世界に一つだけのろうそく作りを楽しんでいました



南部衛生センター屋上から撮影した、津波が襲いかかる瞬間の錦須賀地区の様子(写真提供:澤田忠男)

冷静に行つた迅速な対応

鉢町で創業100年の自転車店を営む、門馬俊治さん。お店を経営する傍ら、市消防団第3支団第1分団の分団長も務めています。

震災当時、いつもと変わらず自宅兼店舗で仕事をしていたという門馬さん。突然大きな



# 危険を省みず、 多くの命を救った…

# とある 地元消防団員の 勇気ある活動

そして、津波到来。救助活動を続けていた門馬さんは、ポンプ車ごと浸水してしまいました。それでも諦めず、車を押しながら浅瀬へと向かうと、ちょうど通りかかった大型トラックに国道まで車をけん引してもらい、難を逃れることができたそうです。

津波が到達するまで、沿岸部と避難所を8往復もした門馬さん。およそ50名の住民をポンプ車で避難させました。その後も、避難所への物資配給や行方不明者捜索などで、およそ1カ月は休む間も

なく活動し続けたそうです。  
ようやく一段落した一昨年  
4月、自転車店を再開。津波  
の被害はなかつたものの、半壊  
となつてしまつたお店は、今秋  
取り壊しを予定。新店舗が完  
成するまでの間は、仮店舗を  
設置して営業を続ける予定で  
す。「震災当時もそうでした  
が、自分を必要として、助けを  
求めている人がたくさんい  
る。『やるしかない』。そう思つ  
て、これからも店を営業して  
いきたい」と強い意思を持ち  
続けています。



市内でも数少ない自転車店を営む門馬さん。お姉さんとアルバイト2名を含めた4人で、お店を切り盛りしています



市消防団第3支団  
第1分団本部 分団長  
(有)門馬自転車店 店主

としはる  
門馬俊治さん(52)

数々の勇気ある行動が注目され、当時の再現VTRが福島中央テレビでも紹介された門馬さん。当時の心境を話してくれました。

いつ津波が襲ってくるか分からない、そんな状況のなかでしたが、不思議なことに恐怖は全く感じず「一刻も早く住民を避難させなくては」という思いだけでした。次々とドラマのような出来事が起こるなか、団員たちも疲れながら、「千年に一度の大震災。今後、歴史に残るであろうこの震災の最中に全力で活動を続け、名譽ある団員になろう!」とみんなのモチベーションを上げ、ひたすら救助活動に励みました。



現在は、地元の子どもたちにも自分の実体験を話し、避難場所などを家族と良く相談しておくことの大切さや、津波の恐ろしさなどを教えています

## お知らせ

### 勿来地区 市民文化祭 開催

#### —展示の部—

■10月26日(土)

9:00～16:30

■10月27日(日)

9:00～15:30

会場:植田公民館

#### —芸能の部—

■11月10日(日)

10:00～15:30

会場:勿来市民会館

関田地区の海岸堤防がさ上げ工事。対象となる堤防の長さは、南が国道6号にぶつかる地点から、北は蛭田川までの2,700m。そのうち北側1,350mを「関田1号」、真ん中の750mを「関田2号」、南側600mを「関田3号」と3つに区分し、工事が進められます。

現在、かさ上げ作業が行われている区間は、関田2号。喫茶店「ジョイ」がある辺りから

昨年11月から開始された、

### 関田地区海岸堤防 工事進捗状況

北へと工事が進められ、ポンプ場があるところまでの堤防のかさ上げ工事を、今年度中に終了させる予定です。なお、関田1号及び関田3号の区間については、準備が整い次第、順次着工していく予定です。



9月上旬の〈ジョイ〉前の海岸堤防の様子

### 勿来地区の津波被災者が 実体験を未来に遺す タイムカプセル事業

岩間町に整備される防災緑地の一部に、タイムカプセルの設置を予定している「なこそ復興プロジェクト」。震災の記録を後世に伝えるため、当時の写真や新聞のほか、地域住民の声などを文面やビデオに撮影し、それらをタイムカプセルに入れ20年後に開封するという同事業。いよいよ8月末から、住民への聞き取り調査が開始しました。

聞き取りを行ったのは、震災をきっかけに交流を始めた、筑波大学の学生を中心とするボランティア団体「Tsukuba for 3.11」。小浜、岩間、錦須賀地区にお住まいの約50軒の地域住民から、当時の体験談や避難経路、孫や子どもへのメッセージを聞き取り、それをもとにした記録集を来年1月までに作成する予定です。代表の福井俊介さんは「実際に被害に遭われた方の話だからこそ、後世に伝える力は大きい。主役は地域のみなさんなので、僕たちは全力でサポートしていきたい」と意気込んでいます。



▲交流スペースにて住民に聞き取りをする筑波大学のみなさん。時には自宅へも訪問して取材しています

この日、調査のため交流スペースを訪れた、福井さん(右)と、下田梢(こずえ)さん(左)



### 植田小学校 生まれ変わった、みんなの体育館

震災で甚大な被害を受けた、植田小学校の体育館。昨年8月から解体工事が始まり、長期にわたって体育館を使用することができなかった同校ですが、今年2月に新築工事を開始。8月7日に完成し、8月26日には新しい体育館を使って始業式が行われました。



▲震災直後の植田小学校体育馆



▲吹奏楽の演奏を聴く子どもたち



▶美しい姿に生まれ変わった体育馆

### 震災を乗り越え、リニューアルオープン!



解体工事中には、地元のみなさんから「完成を待ってるよ」という声もあったそう。創業して63年の間、地域に愛され続けているお店です

震災で大規模半壊となってしまい、今年2月から解体工事が行われていた、植田町の〈フォトスタジオみどりかわ〉。4月から新築工事が開始され、9月23日、リニューアルオープンを迎えました。

代表の緑川貴之さんは「まだまだ地区外に避難している方が多く、交流や絆が薄れてきている中で、家族や友達など、みんなが一緒に笑っている幸せな姿を写真に収めていきたい」と話しています。

#### フォトスタジオみどりかわ

植田町番所下26-11 ☎0246-62-2688

■営業時間:平日／9:00～19:00、休日／9:00～18:00  
(不定休)

復興へ向けた動き

勿来

## ■災害公営住宅の入居申込受付

### 開始について

市では10月22日(火)から、災害公営住宅入居申込受付を開始します。申込方法は、専用受付場所のほか各支所の経済土木課や市民課などでの直接申込みまたは郵送(12月24日消印有効)となります。

| 専用受付場所 | 受付期間                        |
|--------|-----------------------------|
| 本 庁    | 平成25年10月22日(火)～12月24日(火)の全日 |
| 小名浜支所  | 平成25年10月22日(火)～11月22日(金)の平日 |
| 勿来支所   | 平成25年11月25日(月)～12月24日(火)の平日 |

◆受付時間9:00～17:00 ※本府は土・日・祝日も受付します。

#### 【申込について】

いずれの受付場所でも市内全ての災害公営住宅の申込ができます。団地別、住宅形態(集合住宅・戸建住宅)、部屋の種別(一般・ペット)、間取り(2LDK・3LDK)により第6希望まで申込み可能。

### 市防災メール配信サービス運用開始

市では10月1日より新たに、国・県・市から配信される気象情報や地域の防災・緊急情報などを携帯電話・PCに電子メールでお知らせするサービスを開始しました。配信項目は、登録の際に選択が可能。なお、メールを受信するには、事前登録が必要です。

#### 〈PC・スマホの登録方法〉

■いわき市のホームページ左上の「いわき市防災メール配信サービス」のバナーから登録画面へアクセスし、登録します。

#### 〈携帯電話・スマホの登録方法〉

■登録用メールアドレスiwaki@entry.mail-dpt.jpへ空メールを送信して登録画面にアクセスし、登録します。  
QRコードからも送ることができます。



〈お問い合わせ〉 市危機管理課 ☎0246-22-1242

### イベント告知 被災地の子ども支援イベント

#### 「イントゥ・アニメーションin福島」開催&参加者募集のお知らせ

日本アニメーション協会・市社会福祉協議会共催にて、アニメ上映会とアニメ制作ワークショップを11月3日・24日の2回開催します。

●11月3日(日)12:30～16:00 【DVDアニメ上映会＆ワークショップ】※ワークショップの最終受付は15:00

●11月24日(日)11:00～14:45 【ヒネモスの生演奏とワークショップで制作したアニメの上映会】

◆会場(両日共):市社会福祉センター5F(平字菱川町1-3)

※対象は小学生から高校生まで。参加無料。希望者は、当日直接会場へ集合。

#### 〈お問い合わせ〉

いわき市復興支援ボランティアセンター(市社会福祉協議会内)

☎0246-38-6631

### 相談コーナー

#### ●各支所での弁護士による無料法律相談会(11月の日程)

勿来支所／14日(木)、四倉支所／19日(火)、小名浜支所／28日(木)

◆主に、東日本大震災からの生活再建にかかる相談が対象。(要予約)

相談時間／14:00～17:00の間で30分程度

〈ご予約・お問い合わせ〉 市広報広聴課 ☎0246-22-7438

ふるさとだよりに情報やご感想をお寄せください!

●メールの方／furusato@asally.co.jp

携帯電話からのメールはQRコードを読み取ってください。→



いわきあいあいで情報発信中!!

いわきあいあい 検索



#### 【選考方法について】

希望する団地について、選考基準に基づき採点を行い、点数が高い順に入居者を決定。第6希望までの住宅に入居できなかった場合は、申込者からの聞き取りを行い、空き部屋の状況により再調整します。部屋の指定は、選考基準に基づく点数が高い世帯から市が指定します。

◆市のホームページ上で世帯収入や世帯構成などを入力し、各団地の家賃額を自動算定できるシステムが利用できます。

### ■災害公営住宅家賃の減免について

市では東日本大震災により住宅を失い、個人で住宅を再建することが困難な被災者の入居を目的に、現在整備している災害公営住宅の家賃について、市独自の減免を実施します。

減免措置の概要は、**全所得階層一律、住宅の管理開始から3年間は50%、4・5年目は25%減免します。**

※ただし、入居開始から4年目以降は、既存の市営住宅と同様に入居開始から3年後に一定基準以上の収入がある方は「収入超過者」に認定され、減免対象とはなりません。

〈お問い合わせ〉 市住宅課 ☎0246-22-7497

### 芸術の秋、「文化の力」で 心の再生といわきの復興を

9月8日いわき芸術文化交流館アリオスにて、毎秋県内各地で開催される福島県芸術祭「開幕式典・開幕行事」が行われました。

52回目を迎える今回は、当市が重点地区となり、「いわき再興・心をつなぐ文化の環」がテーマとなりました。

開幕行事では、第1部「いわきの再生」と題して筝演奏、民俗芸能、日本舞踊、民謡、ジャズダンスが、いわきにまつわる演目で披露されました。第2部では「いわきの四季」を大正琴演奏、日本舞踊、フラダンス、ミニドラマ、合唱、バレエ、吟剣詩舞、ダンスなどで季節ごとに表現していました。第3回フラガールズ甲子園優秀賞の平商業高校フラガールズチームなど市内の高校生もたくさん参加しました。

当芸術祭主催および参加行事は、12月上旬まで市内はじめ県内各地で開催されます。



市無形文化財第1号「山外舞」を、北部赤井諏訪神社芸能保存会が演じました



オープニングは、いわき三曲連盟による壮大な筝曲演奏

### 表紙の人

3年生の頃から練習に参  
加してきた6年生たち。今  
年は最高学年として下級生た  
ちをまとめてきました。

今夏も地区内外の行事で  
発表し、10月19日の大浦小  
の学習発表会では、今年最  
後の演舞を披露しました。



上仁井田子供じんがら(大浦小6年)

左から／山内翔太郎くん、白井亨紀くん、鈴木なぎさちゃん、  
西山日向子ちゃん、太田雅人くん、三浦凜華ちゃん、鈴木大樹くん